

平成 30 年 11 月 30 日

総務民生常任委員会
委員長 吉津 弘之 様

総務民生常任委員 長尾 実

総務民生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

平成 30 年 11 月 5 日 (月)

愛知県東海市 「いきいき元気推進事業について」

11 月 6 日 (火)

三重県津市 「ユニバーサルデザインのまちづくり」

11 月 7 日 (水)

奈良県橿原市 「子ども総合支援センターの取り組みについて」

2. 視察参加名簿

委員長 吉津 弘之

副委員長 江原 達也

委員 三輪 徹

委員 長尾 実

委員 岩藤 睦子

委員 橋本 憲治

委員 綾城 美佳

以上 7 名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	愛知県東海市			
視察日時	平成 30 年 11 月 5 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00			
視察項目	いきいき元気推進事業			
対応部署名	東海市市民福祉部健康推進課			
自治体概要	面積	43.43 k m ²	人口	114,511 人
	臨海工業都市 臨海部に中部圏最大の鉄鋼基地を抱え、一方では全国有数のふき、洋ランの生産地でもある。近年は、伊勢湾岸自動車道（第二東名・名神）、名古屋港、中部国際空港の整備により陸・海・空の交通の要衝として重要な役割を担う。第 6 次総合計画で「ひと夢つなぐ安心未来都市」をテーマに協働・共創のまちづくりを目指す。			
視察内容				
<ol style="list-style-type: none">1. 「トマト健康まちづくり」に取り組まれた目的や経緯2. 「トマトで健康づくり条例」制定における市民の反応3. 取り組みの効果や予算について4. 今後も事業を継続していくにあたっての問題点や課題5. いきいき元気推進事業において、今後新たに実施を予定されている取り組み6. 「健康寿命をのばそうアワード」や「活力協働まちづくり推進団体表彰」受賞において、とくに評価されたと考えられる点や力を入れた取り組みについて				
所 感				
<p>健康づくりと生きがいづくりに東海市の新たな方向性を掲げ、ひとりひとりがいきいきと笑顔でいられるまちを将来ビジョンとしている。</p> <p>健康のためにさまざまな方策を取っており健康寿命日本一を目指している。</p> <p>長門市も現在健康に注目しており、現段階では体操等行っているが本気で取り組む必要があると思う。ひいてはそれが急速に進む高齢化対策の一助になると思われる。</p>				

(別紙)

視察先	三重県津市			
視察日時	平成 30 年 11 月 6 日 (火) 13 : 30 ~ 15 : 30			
視察項目	ユニバーサルデザインのまちづくりについて			
対応部署名	津市政策財務部政策課			
自治体概要	面積	711.19k m ²	人口	279,857 人
	平成 18 年 1 月 1 日、10 市町村が合併し新しい津市が誕生し、西は奈良県と境を接し、東は伊勢湾に至る三重県を横断する県下一の面積を有す。博多津 (福岡県) 坊津 (鹿児島県) とともに日本三津とうたわれ栄えた港町である。また、伊勢神宮へと続く伊勢街道、伊賀街道など 6 つの街道が通じる宿場町として栄えた。三重県の県庁所在地でもある。			
視察内容				
<ol style="list-style-type: none">1. UD (ユニバーサルデザイン) のまちづくりに取り組まれた目的や、開始までの経緯2. UD 発表会の実績や効果、事業に伴う予算について3. UD 講座の実施に対する市民の反応4. UD 講座を今後も継続していくにあたっての問題点や課題5. UD のまちづくりにおいて、今後新たに実施を予定されている事業があるか				
所 感				
<p>すべての人が使いやすくなるように考えてつくる、いわゆる年齢や性別、文化、身体 の状況などに関わらず誰もが暮らしやすい社会を実現することを掲げ、津市では福祉課 でなく政策課が担当し、福祉関係だけでなく市民全体に及ぼすことから行政組織とした もの。</p> <p>ただ問題点は、UD 講座を積極的に取り入れているが、メンバーの高齢化等が進んで いることから後継者不足が課題となっており、人体育成、確保に努めなければなら ない。</p> <p>どこの自治体でも共通しているのが、事業継続には必ずこの問題が出てくる。</p>				

(別紙)

視察先	奈良県橿原市			
視察日時	平成 30 年 11 月 7 日 (水) 10 : 00 ~ 11 : 30			
視察項目	子ども総合支援センターの取り組みについて			
対応部署名	橿原市教育委員会事務局、橿原市子ども総合支援センターこども発達支援課			
自治体概要	面積	39.56 k m ²	人口	122,723 人
	奈良県のほぼ中央部に位置し、古くから地域の交通の要衝として県下第 2 の都市として大和平野南部における道路交通上の拠点の役割を担っている。わが国古代文化の発祥地として史跡・文化財等の歴史的遺産が数多く残っている。本市は昭和 31 年 2 月 11 日 6 町村が合併し市制を施行。			
視察内容				
<ol style="list-style-type: none">1. センター設置のきっかけや、開設までの経緯、事業費など2. センター設置の効果や市民の反応、利用状況について3. 運営にあたっての問題点や、今後の課題について				
所 感				
<p>子ども総合支援センターは、発達障害等を有する子ども及びその家族に対し、その子どもの成長段階に対応する一貫した教育的福祉的及び医学的支援を行うことを目的として開設したもので、小学校の校舎を有効活用し隣接している小学校との交流も出来る状況である。</p> <p>昭和 50 年度に開設した心身障害児訓練施設かしの木園を核として前段でも述べている教・福・医の総合的な対応をしている。</p> <p>また、個人が所持しているサポートブックやセンターが所持するリンクノートを作成し、当該子どもの状況等把握しているのが印象に残った。</p>				